

新中央図書館整備基本構想

中間報告書(案)

平成18年12月

柏市教育委員会

1 パブリックコメントを行うにあたって・・・1

2 新中央図書館の基本的な考え方・・・・・・・・・・2

(1) 柏市図書館網の変遷

(2) 新中央図書館の基本方針

(3) 新中央図書館のコンセプト

(4) 新中央図書館の方向性

(5) 新中央図書館の戦略

(6) 利用者別機能の考え方

(7) 目的別機能の考え方

2 施設活動の基本的な考え方・・・・・・・・・・8

(1) 施設活動の基本方針

(2) 新中央図書館のサービス

(3) 市民参加の基本方針

1 パブリックコメントを行うにあたって

今，全国の各図書館では，地域や市民に役立つ情報拠点として認識されるために，様々な改革が進められております。

柏市においても，改革のための検討が始まっております。具体的には，現在の図書館本館の機能を強化し，今後の経営戦略・事業展開を構築する検討，沼南庁舎改修に伴う子ども図書館の整備検討，そしてこの新中央図書館の整備検討です。

現在の柏市立図書館本館は，３０年前の昭和５１年３月にオープンし，施設の老朽化が進んでおります。

このような中，市民のみなさんからの新しい図書館の建設を望む声が増えてきていることから，平成１８年度中に基本構想をまとめることになりました。

柏市の図書館が市民の身近な存在となるためにも，さらなる図書館事業の改革に取り組み，着実に推進していくことが大切だと考えております。

2 新中央図書館の基本的な考え方

(1) 柏市図書館網の変遷

1. ‘70年代

日本の公共図書館の成長期と重なり、76年に本館がオープン。「利用者の資料要求に応える」図書館の基本的な役割を貸出中心に展開していった。

2. ‘80年代

当時としては先駆的であった、コンピュータシステムが80年に導入され、図書館業務の効率化が進んだ。近隣センター内の分館設置が広がり、市民の殆どが身近なところで図書館サービスを受けられるようになった。

3. ‘90年代

成熟した利用者から、より質の高いサービスを求める声が高まり、図書館側も新しいサービス計画を作成するが、新中央図書館は実現しなかった。県内図書館ネットワーク等、相互貸借サービスを支える体制が広がり、本館の時間延長などのサービス改善も行われた。

4. ‘2000年代

2000年代に入り年々貸出が増加。利用者用図書検索・インターネット蔵書検索の各システム、ブックスタートが始まった。IT化・少子高齢化等の急速な変化により、利用者の要求はますます多様化・高度化し、新しいサービスの展開が求められている。

昭和49年(1974)

豊四季台分館 open

昭和51年(1976)

図書館本館 open

昭和53年(1978)

沼南分館 open

昭和54年(1979)

田中・南部・西原分館 open

昭和55年(1980)

永楽台・布施分館 open

昭和57年(1982)

増尾・光ヶ丘・新富分館 open

昭和58年(1983)

高田・根戸分館 open

昭和59年(1984)

新田原分館 open

昭和62年(1987)

松葉・藤心分館 open

平成14年(2002)

ブックスタート事業開始

平成17年(2005)

柏市・沼南町合併

新中央図書館
へ向けて

(2) 新中央図書館の基本方針

今日、生活水準の向上や自由時間の増大、少子高齢化の進展等の社会の変化に伴い、人々の価値観は大きく変化しており、学習意欲はさらに高まっています。

また、雇用形態や雇用制度の多様化により、転職やキャリア・アップに向けての学習の必要性が強まっています。

さらに、様々な制度の変化や技術の進歩、情報の高度化が進展してきており、自己判断や自己責任を求める風潮が強くなっています。

新中央図書館は、柏市を豊富な資料で支える情報拠点として、多様な情報を提供して、市民の知的欲求を満たしていくとともに、市民一人一人が自己を高める手助けを行い、市民の自立的な判断を支えていくことが求められます。そして、市民が柏のまちづくりに主体的に参画し、毎日を充実し、安心して生活できる仕組みを育んでいく必要があります。

(3) 新中央図書館のコンセプト

「市民に身近で安らげる新中央図書館」

柏市は、市民に身近で安らげる新中央図書館を情報戦略拠点の基本コンセプトにすることによって、柏市の人・物・情報の貴重な資源を総合的に活用し、様々な交流による活性化と柏市らしい地域づくりを実現していきます。

- いつでも安全でかつ快適で安心して利用し続けることができる
新中央図書館
- どこでも充実した情報を引き出すことができる多様な魅力と活動のあふれる新中央図書館
- だれでも図書館活動に参加でき、世代を超えてふれあい、互いに支えあう新中央図書館

(4) 新中央図書館の方向性

これまでの柏市立図書館では、市民の学習支援、資料の貸出、収集、保存を主な機能としており、市民が求める図書を収集していくことでニーズに応えていました。

しかし、時代とともに市民のニーズは多様化し、図書館のあり方や利用のされ方も変化してきています。

そこで、柏市固有の資源を活かし、新中央図書館を中心にまちの交流を増加させ、具体的な活動を生み出すことで、図書による発信から、情報による発信へと柏市の図書館網は生まれ変わります。

- 人的資源の活用により、レファレンス機能を充実し、利用者を拡大します。
- 物的資源の活用により、利便性を充実し、サービスの向上をはかります。
- 情報資源の活用により、提供資料を充実し、図書館の付加価値を高めます。

【新中央図書館の役割】

豊富な資料で支える新たな情報戦略拠点

新中央図書館は、市民のより良い生活、地域社会を築くための基盤となります。

- あらゆる市民の探求心を育み、課題解決、自分発見、地域発見ができるきっかけづくりを行います。
- 本の魅力、まちの魅力について、様々な分野から資料収集や調査研究を重ね、新鮮でわかりやすい情報発信を行います。
- 諸々の活動を通じ、世代を超えて交流できるしかけづくりを行います。
- 常に成長する図書館網の実現のため、市民と行政の双方向の対話を重要視し、市民の参画を促進します。

(5) 新中央図書館の戦略

「人と情報をつなぐ・人と人をつなぐ」

市民の生活が多様化し，利用層や地域特性にあった図書館サービスを提供していくためには，新中央図書館と16の分館を合わせた，柏市全体としての望ましい機能と役割分担を検討していく必要があります。

16の分館は，柏市の図書館事業の特徴であり，貴重な財産として維持していきます。新中央図書館がさらに具体化していく中で，分館のあり方について，検証を行い，柏市の図書館網の充実をはかっていきます。

【新中央図書館】

柏市の図書館網の頭脳としての機能を担い，分館をバックアップします。

- 市民の課題解決について支援する拠点とします。
- 関係機関との連携で，多様な情報資料の提供拠点とします。
- 各イベントなどの事業の企画・立案拠点とします。
- ボランティアの育成拠点とします。

【分館】

地域における図書館サービス提供の最前線基地としての機能を担います。

- 市民の課題について把握します。
- 関係機関との連絡を密にし，地域ニーズに合った資料を提供します。
- 各イベントなどの事業を実施します。
- ボランティアの活動拠点とします。

(6) 利用者別機能の考え方

「あらゆる人にやさしいサービス環境」

柏市には、生活圏域の中で身近に利用できる16の分館があり、図書館サービスが気軽に受けられる環境となっています。

また、柏市には日常的に、通勤・通学、文化・スポーツ活動、観光・レクリエーション、買い物、環境活動、ビジネス、研究など、様々な目的をもって、市外から訪れ活動する数多くの人々がいます。そうしたあらゆる人々に図書館サービスを展開します。

【具体的な利用層】

○児童層

未来を担う子どもたちの豊かな感性や想像力を育みます。

○青少年層

調べ学習などで積極的に利用できるよう、活字に関心を持たせます。

○社会人層

自己学習や調査・研究に加え、交流を通じて、豊かな暮らしにつなげます。

大活字本、点字資料、録音資料などきめ細やかな図書館サービスをはかり、また行きたいと思うような環境につなげます。

活動の成果発表や様々なイベントへの企画立案段階からの参加やかたりべとしての参加につなげます。

○外国人層

他文化サービスに力を入れ、市民の異文化理解の促進に役立てます。

(7) 目的別機能の考え方

新中央図書館は、人的資源の活用によるレファレンス機能の充実，物的資源の活用による利便性の充実，情報資源の活用による提供資料の充実をはかり，下記の4つのポイントを核にし，サービスを展開します。

【生活支援・地域情報】

市民の生活に密着した，新鮮な情報を手にできます。

- 郷土資料，地域資料，行政資料の情報を発信します。
- 健康・医療・福祉・子育てなどの身近な情報を提供します。
- 他の施設との連携・協力関係を強化し資料の充実をはかります。

【情報化】

だれもがすばやく課題解決のきっかけをつかめます。

- インターネットや携帯電話による検索・予約ができます。
- ホームページを利用した多様な情報発信をします。
- 図書館活動のPRのための館内IT化をします。
- 専門職員による高度なレファレンスサービスを行います。

【学習・体験・遊び】

本や情報を通じ，気づき・学び・考え・行動できます。

- 展示・イベントなどの行事を開催します。
- グループでの読書や談話の場を設定します。
- サークル活動ができる場を設定します。

【交流】

ふれあいの中で，豊かな双方向の対話が生まれます。

- 新たな発見・出会いを創出する成果発表の場を設定します。
- 世代を超えた人々のふれあいの場を設定します。
- 運営などにも市民が積極的に参加できるようにワークショップやまつりを開催します。

3 施設活動の基本的な考え方

(1) 施設活動の基本方針

新中央図書館を利用する市民は、あらゆる年齢にわたり、様々なニーズがあります。それらに対し、幅広い情報、専門的な情報、多様な活動を提供し、応えることが図書館の使命です。

また、より多くの市民に利用していただくために、図書館の多様な機能の広報をはかることは重要です。

そこで、利用者の視点に立った施設活動方針、サービス内容を策定することが必要になってきます。来館者数の把握、顧客満足度の調査などを行い、利用者の声を常に施設活動に反映させることで、効率的な図書館事業を展開していきます。

現在、柏市における財政状況は非常に厳しい状態であります。効率的かつ効果的な図書館事業の展開が必須であるとともに、新中央図書館として、新たな収入源の模索を検討していきます。

【基本方針】

効率的な図書館事業を展開していきます。

○図書館の多様な機能を広報します。

○顧客満足度を調査します。

○利用者の声を反映させるしくみをつくります。

○新たな収入源を模索します。

(2) 新中央図書館のサービス

新中央図書館においては、図書館サービス時間の延長や来館が困難な市民への対応など利便性の拡大を進めていきます。

また、市民をもてなす図書館職員の教育・研修を徹底し、スキルアップをはかり、あらゆる市民が快適に利用できるようにしていきます。

【閲覧・貸出サービス】

- 専門書，郷土資料，デジタル資料など幅広い資料を収集・管理します。
- わかりやすく配架し，利用者が本に興味を持てる工夫をします。
- 年齢や目的に応じた多様な閲覧スペースを設けます。
- 貸出手続の効率化をはかります。

【予約・リクエストサービス】

- 柏市の図書館網全体を通して，市民のニーズにあった資料の把握に努めます。
- 他施設との連携による資料の提供を行います。
- インターネットによるサービスを展開します。

【レファレンスサービス】

- 市民の多様なニーズに応えるため，職員の専門性を高め，メール，電話でも対応できるなどサービスを充実させます。
- 関係機関，専門家などへの照会・紹介を行います。
- 事例をデータベース化し，閲覧できるようにします。

【読書案内サービス】

- 新着図書やテーマごと、年齢ごとのブックリストを作成します。
- 図書に関する情報をホームページやメールマガジンにより発信します。
- 図書館の利用に関すること、各種サービスに関することなど気軽に相談に応じます。

【アウトリーチサービス】

- 来館が困難な市民には、郵送によるサービスを行います。
- コンビニなどでも容易に受取や返却ができるようにします。

【地域情報提供サービス】

- 健康・医療・福祉・子育て・ビジネスなどの生活に密着した情報を提供します。
- 地域の市民ボランティアの情報を集約し、提供していきます。

【複写サービス】

- 利用者の求めに応じ調査研究のための資料の一部を複写いたします。

【イベント・講座】

- 読書会、展示会、シンポジウム、ワークショップなどを積極的に行います。
- 市民の情報リテラシー（情報を活用する能力）の向上について支援します。

(3) 市民参加の基本方針

柏市には、市民ボランティア団体が数多く存在し、ボランティア活動が大変盛んな地域です。また、市民アンケートにおいても、「ボランティアに興味がある」という回答が多く得られています。

意欲的な市民には、準備段階から参加してもらい、市民と行政が一緒になって新中央図書館の整備を進めていくことは、市民にとって、愛着のもてる、より使いやすい図書館になるものと考えます。

現在、柏市ではブックスタート事業をボランティアの協力を得て行っていますが、それ以外においても、本の整理や修理、読み聞かせ、高齢者、外国人などのためのサービス、利用者のための案内・相談、検索支援など、ボランティアの協力を得て実施できる業務は多岐にわたります。市民が積極的に図書館運営に参加できるしくみをつくることが、図書館の成長には欠かせないものです。

【基本方針】

- 友の会などの市民ボランティア組織をつくります。
- 市民ワークショップを行います。
- ボランティアコーディネーターを育成します。